

チーム美らサンゴ 2018年



沖縄サンゴ礁・保全活動報告

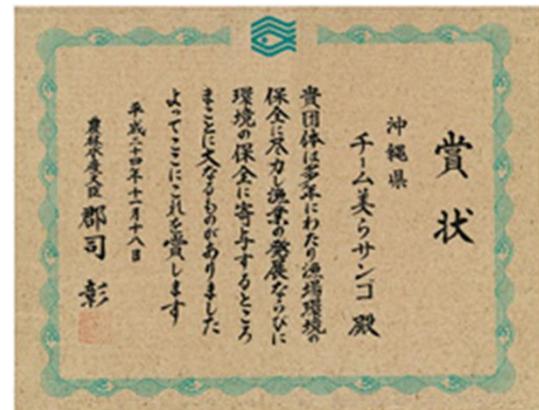
沖縄海邦銀行・沖縄電力・オリオンビール・琉球放送・沖縄タイムス・
沖縄ヤマト運輸・川崎重工業・ダイワロイアル・名護パイナップルワイナリー
ANA・DIVER・PADIジャパン・ヤマハ発動機・イサム塗料・住友化学・
アップフロントグループ・カシオ計算機・サハラインターナショナルグループ・
八洲物産

サンゴを救うために・・・

自治体・地域住民・企業によるサンゴの保全活動

沖縄県内外の企業

経済的支援 | 普及活動



2012年全国豊かな海づくり大会で農林水産大臣賞受賞

自治体による後援

沖縄県
恩納村
環境省



ボランティアのダイバーの皆さん



2015年グッドライフアワード
で最優秀賞の環境大臣賞受賞



地元関係者による協力

恩納村漁協
万座リゾート

2018年の参加状況

表1. チーム美らサンゴ 植え付け参加状況

年	回数	人数			本数		
		ダイバー	ノンダイバー	計	植えつけ	寄付等	計
2004年	7	252		252	391		391
2005年	8	154		154	154		154
2006年	10	188	36	224	224		224
2007年	11	285	94	379	285		285
2008年	4	190	42	232	217		217
2009年	8	95	64	159	229		229
2010年	5	107	178	285	243		243
2011年	4	124	35	159	374		374
2012年	4	114	64	178	316		316
2013年	4	128	61	189	317	475	792
2014年	4	123	44	167	290	817	1,107
2015年	4	145	143	288	440	830	1,270
2016年	4	140	140	280	420	854	1,274
2017年	4	160	88	248	408	1,622	2,030
2018年	4	155	133	288	405	1,681	2,086
計	85	2,360	1,122	3,482	4,713	6,279	10,992

表2. 2018年の植え付け状況

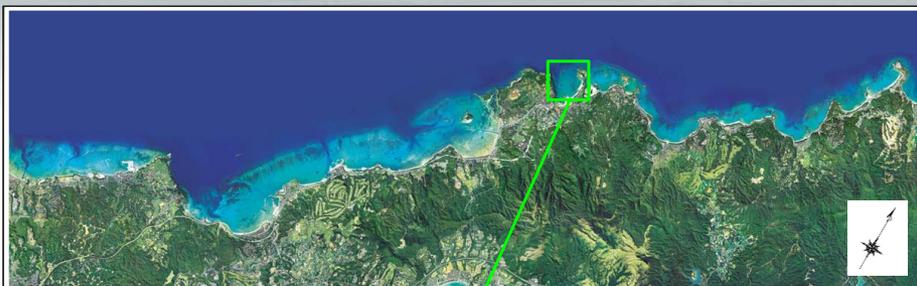
対象者	参加者	本数	植え付け場所
ダイバー	155	237	トベラ岩
ノンダイバー	133	168	トベラ岩
啓発イベント	237	251	沖側
ANA ダイヤモンド	44	880	沖側
寄付等		550	沖側
	569	2,086	

チーム美らサンゴは、2004年より活動を開始し、2018年までに、**3,482名**が参加し、**10,992本**のサンゴを植え付けました。

2018年は、ツアー参加者288名で405本を植え付けました。また、寄付分は、ANAダイヤモンド等で1,681本となっており、計2,086本の植付けとなっています。

累計では、**1万本**を達成しました。

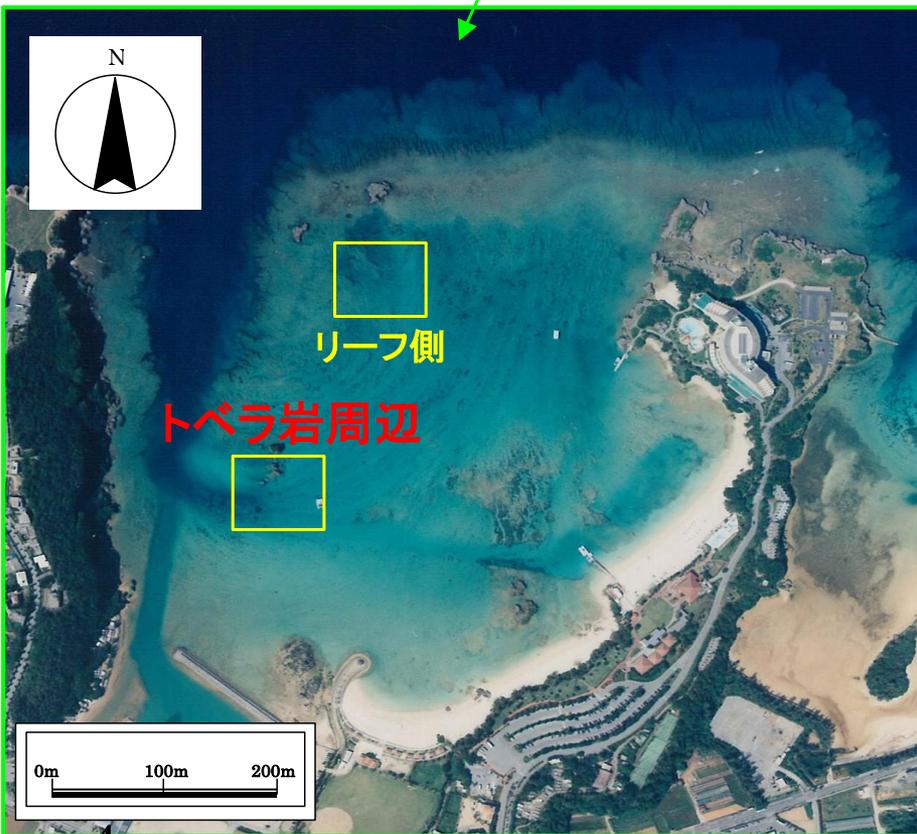
植え付け場所



植え付け場所は、沖縄県恩納村の万座湾内です。

2018年のチーム美らサンゴの植え付けは、生存率が高いトベラ岩周辺としました。

ANAダイヤモンドクラブ等による寄付分は、リーフ側に植え付けました。



恩納村



植え付け基盤の変更

2014年は、春の植え付け以降、プレート型基盤から円柱のスティック型基盤へ変更しました。

2015年からは、回転防止のため、四角柱のスティック型基盤に変更しました。

スティック型基盤は、海水より抽出したマグネシウム(にがり)を使用した天然素材です。



チーム美らサンゴの植え付け活動

植え付け活動は、下記の手順で行います。

- ① サンゴ学習会
- ② 陸上水槽でのサンゴ観察
- ③ サンゴ観察ダイビング
- ④ サンゴ植え付け講習会
- ⑤ サンゴ植え付けダイビング(1人2本の植え付け)
- ⑥ 卒業式
- ⑦ 懇親会

チーム美らサンゴの植え付け活動 サンゴ学習会



2018年5月



2018年5月



2018年5月



2018年5月

チーム美らサンゴの植え付け活動

観察ダイビング



2018年5月



2018年5月



— 8 —

2018年5月

養殖場と苗の観察



2018年5月



チーム美らサンゴの植え付け活動 植付けダイビング



2018年5月



2018年5月



— 10 —

2018年5月



2018年5月

チーム美らサンゴの植え付け活動 植付けダイビング



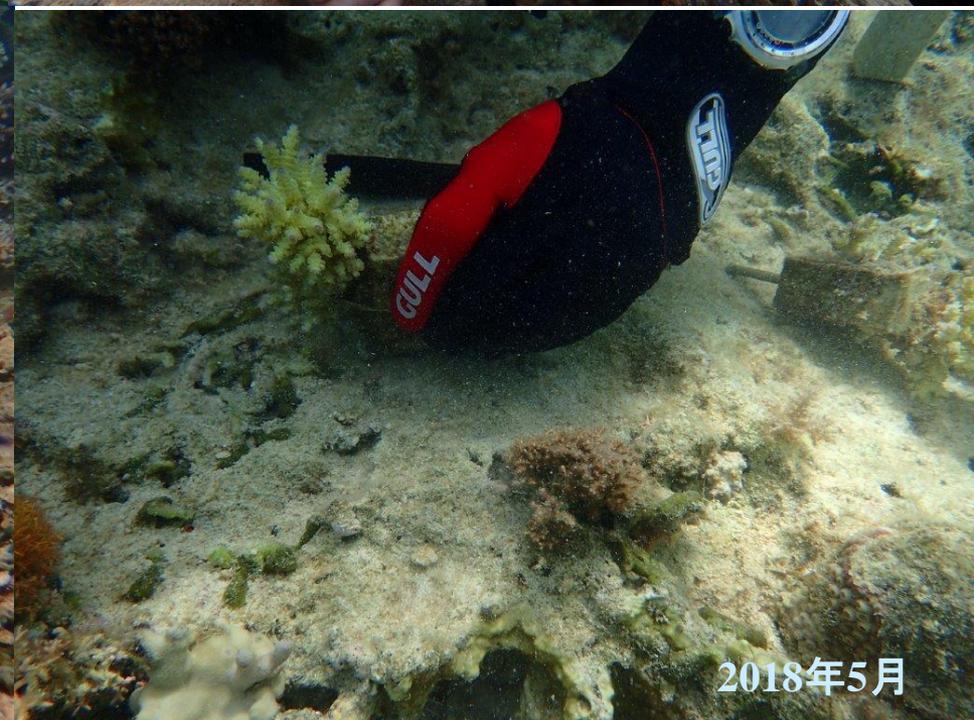
2018年5月



2018年5月



2018年5月



2018年5月

植付け(観察)



2014年春植え付け



2014年春植え付け

撮影:2017年5月16日



2015年春植え付け



2015年春植え付け

植付け(観察)

2017秋

2015年秋植え付け

2015年秋植え付け

撮影:2017年5月16日

チーム美らサンゴの活動

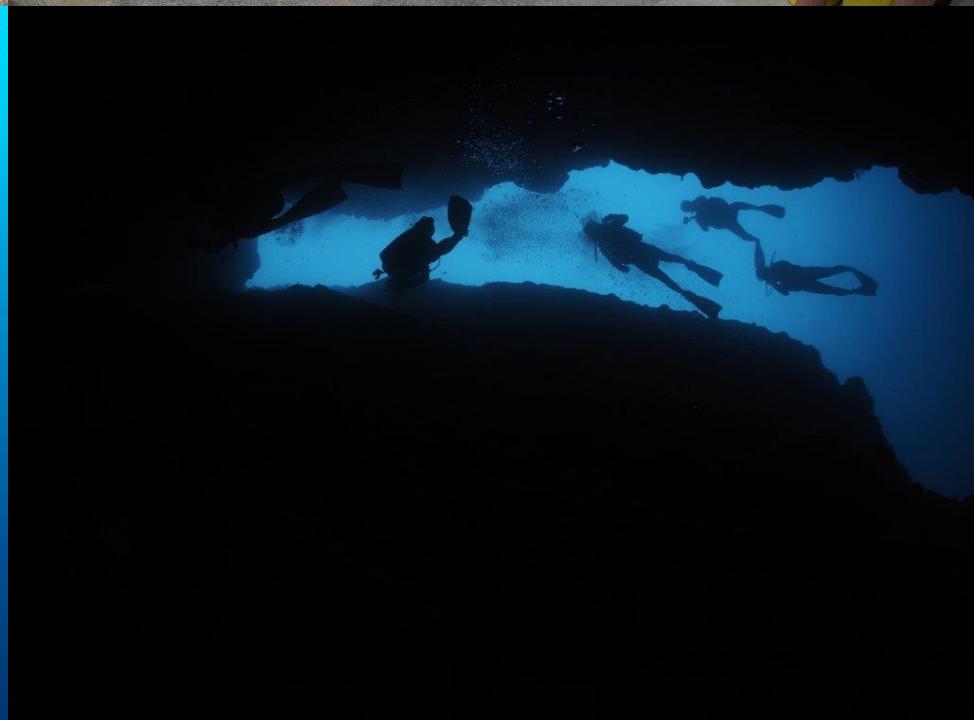
植え付けたサンゴは、オニヒトデからの食害から守ります。





サンゴ産卵イベント

撮影：2018年6月2日



サンゴ産卵イベント



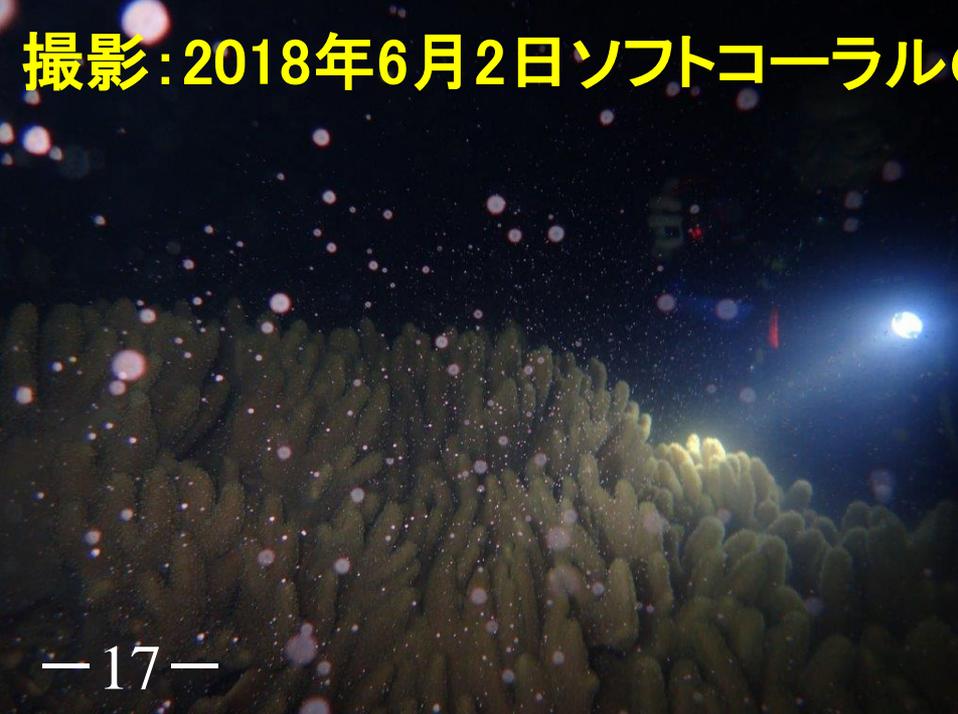
撮影: 2018年6月2日



サンゴ産卵イベント



撮影：2018年6月2日ソフトコーラルの産卵（撮影は、珍しいです）

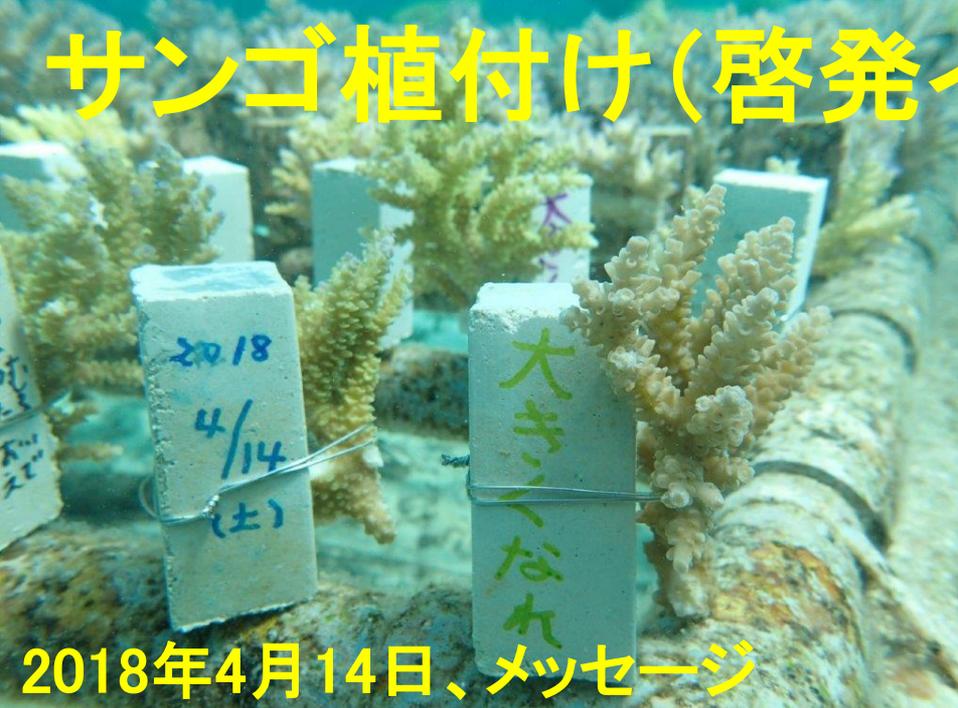


サンゴ産卵イベント



撮影：2018年6月2日

サンゴ植付け(啓発イベントと寄付分)



2018年4月14日、メッセージ



2018年4月18日、中間育成開始



2018年4月26日、苗作り



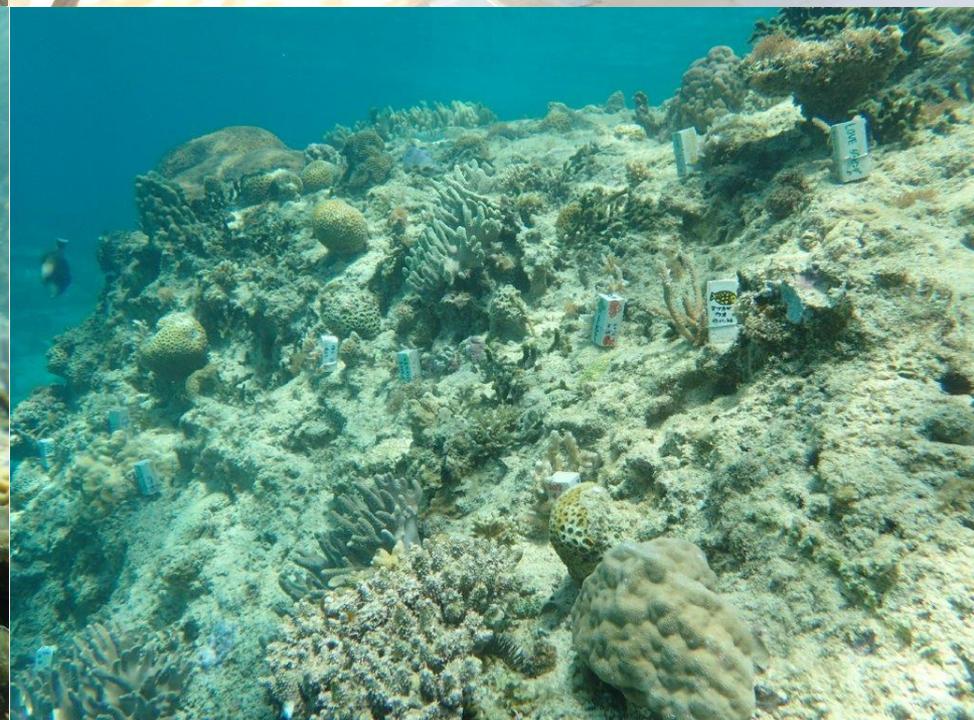
2018年4月26日、中間育成開始

サンゴ植付け（啓発イベントと寄付分）



2018年4月27日、**新型基盤**

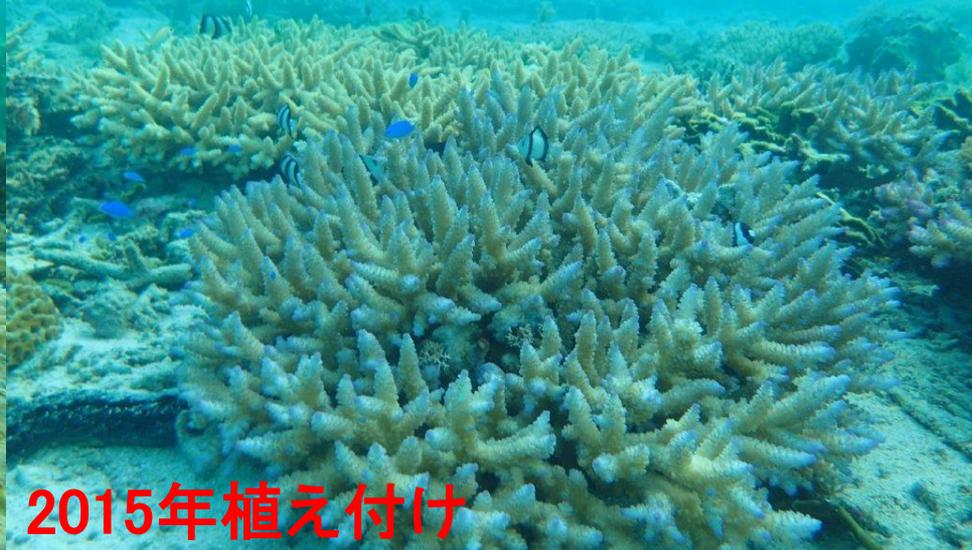
2018年4月27日、**植え付け**



植付け(ANAダイヤモンド)



2014年植え付け



2015年植え付け

撮影:2017年6月27日

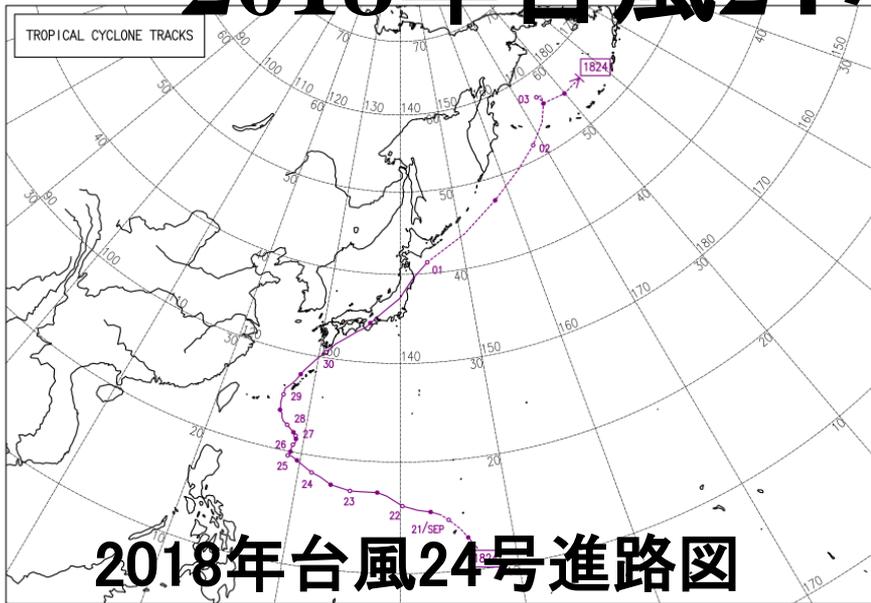


2016年植え付け



2017年植え付け

2018年台風24号での被害状況



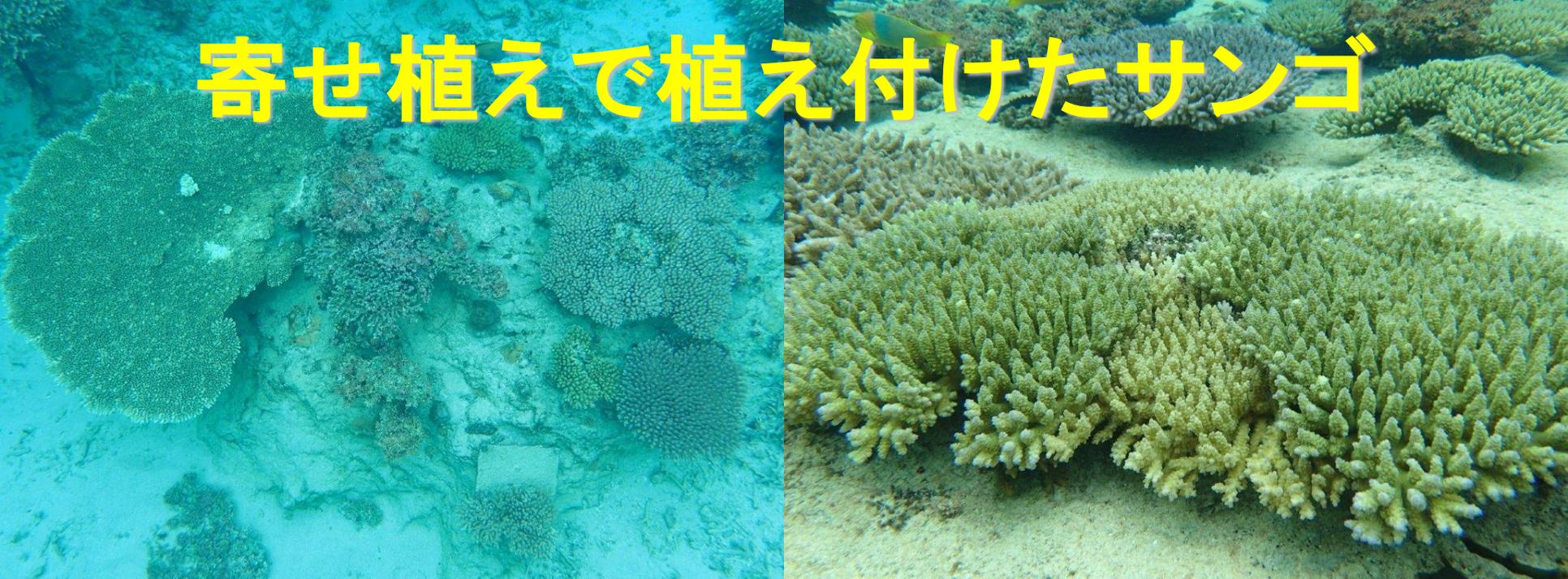
撮影:2018年10月7日

2018年台風24号は、高潮・高波が発生し、陸上施設に大きな被害が生じました。

植え付けたサンゴには、転石等により破損する被害が乗りましたが、徐々に回復しています。

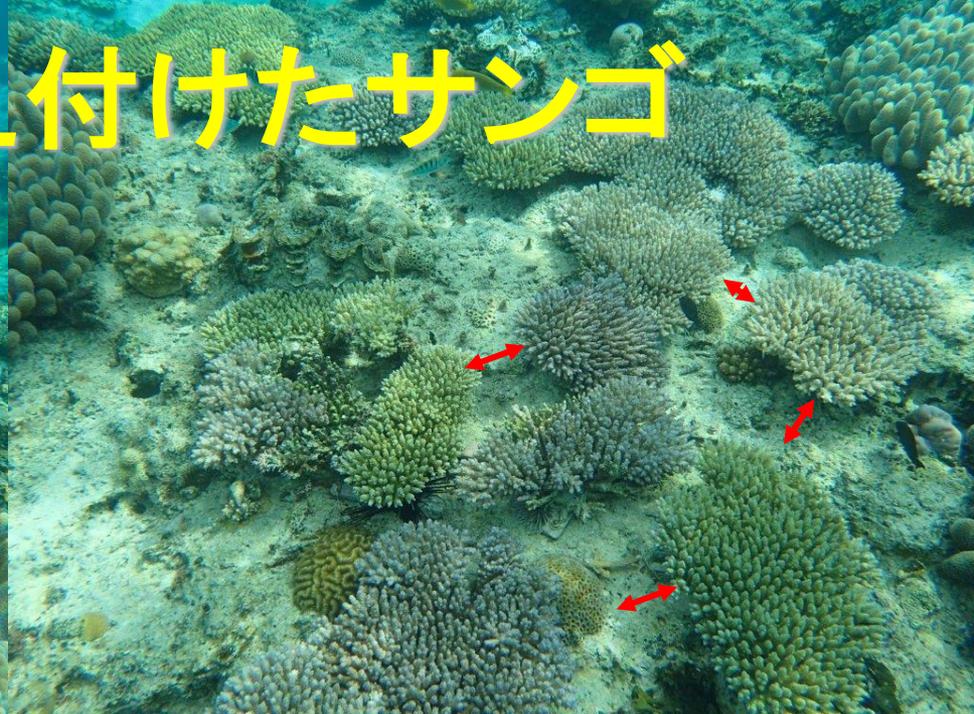
撮影:2018年12月19日

寄せ植えで植え付けたサンゴ



魚による食害を防ぐため、保護カゴ内に数本を寄せ植えした場合には、**テーブルサンゴ**では1群体が優先し、**花房状サンゴ**では成長が遅くなり、枝状サンゴでは、それぞれの枝が絡まるように成長することが見られました。

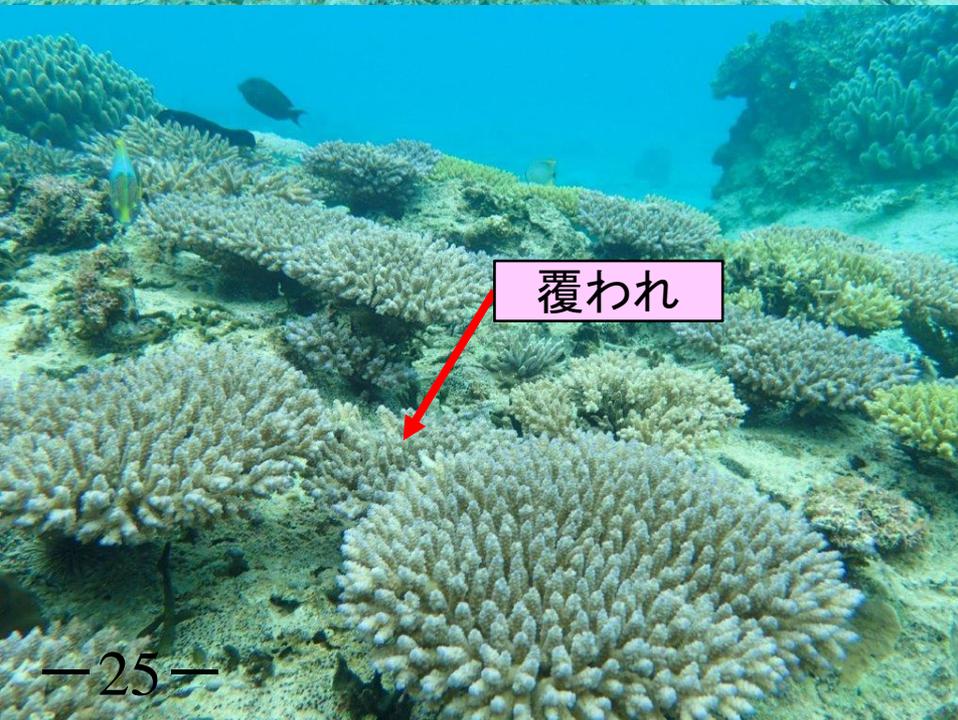
2010年に植え付けたサンゴ



ウスエダミドリイシ（花房状サンゴ）を**寄せ植え**した場合には、それぞれの**群体の成長が遅い**傾向が見られた。

また、寄せ植えした群集間では、それ以上**近寄らない距離**があり、**成長が止まる**傾向が見られた。

2015年春に植え付けたサンゴ



ウスエダミドリイシ(花房状サンゴ)を**単体植えした**場合では、**寄せ植えした**場合と**比べ成長が早くなる**傾向にあった。

また、群体間では、成長や場所の関係で、「覆う」、「覆われ」といった場所をめぐる競争が起こっている。

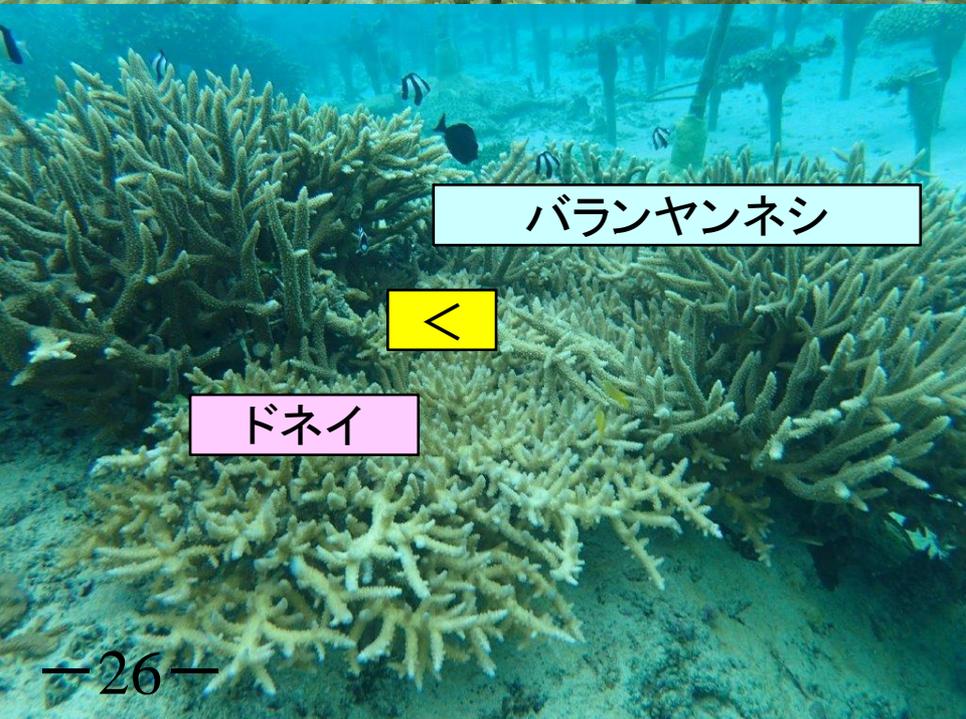
2016年に植え付けたサンゴ



ウスエダミドリイシ

<

ドネイ



balanヤンネシ

<

ドネイ

藪状のサンゴは、群体の接触が普通に起こる。また、より高い位置まで成長するサンゴが他を覆う傾向が見られた。

競争は、ウスエダミドリイシ < ドネイ < balanヤンネシの順であった。

2018年のまとめ

- ① チーム美らサンゴの活動は、2018年で15周年を迎えました。今までに3,482名が参加し、10,992本のサンゴを植え付けました。**15周年で植付け1万本を達成しました。**
- ② サンゴの産卵は、6月2日に確認されました。
- ③ 2018年は、台風24号により破損等の被害が見られましたが、徐々に回復しています。枝状サンゴでは、破損により生育範囲を広げる可能性があります。
- ④ サンゴの植付け方法によって成長に違いが見られました。枝状サンゴや藪状サンゴは、同一種の株を高密度に植えた方が、花房状やテーブル状は、成長を予測して株を離して植えた方が成長や生存率が良くなる傾向が見られました。

2018年の技術的見地(まとめ)

- ④ サンゴの植付け方法によって成長に違いが見られました。
- ア. 数本を寄せ植えした場合には、テーブルサンゴでは1群体が優先し、花房状サンゴでは成長が遅くなり、枝状サンゴでは、それぞれの枝が絡まるように成長することが見られました。
 - イ. ウスエダミドリイシ(花房状サンゴ)を寄せ植えした場合には、それぞれの群体の成長が遅い傾向が見られた。また、寄せ植えした群集間では、それ以上近寄らない距離があり、成長が止まる傾向が見られた。
 - ウ. ウスエダミドリイシ(花房状サンゴ)を単体植えした場合には、寄せ植えした場合と比べ成長が早くなる傾向にあった。また、群体間では、成長や場所の関係で、「覆う」、「覆われ」といった場所をめぐる競争が起こっている。
 - エ. 藪状のサンゴは、群体の接触が普通に起こる。また、より高い位置まで成長するサンゴが他を覆う傾向が見られた。また、競争は、ウスエダミドリイシ < ドネイ < バランヤンネシの順であった。